

準絶滅危惧 (NT)

スイカズラ科

カノコソウ

Valeriana fauriei Briq.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):公益財団法人ホシザキグリーン財団



選定理由

県内での生育地はまれな状態となっている。生育地での個体数も多くはない。

概要

山地の少しばかり湿り気のある草地に生える多年草で草丈は40—80cm。茎の下部につく葉は長い葉柄があって2—3対に羽状の小葉があり、上部では柄が短く羽状に全裂しない。花は春から初夏にかけて咲き、茎の上部の集散花序に小花を多数つける。花冠は径3mmで淡紅色である。北海道から本州、四国、九州に分布し、朝鮮半島、中国に分布する。

参考文献

井上雅仁(編)(2014) 杵村喜則氏収集植物標本目録(II), 207pp. 島根県立三瓶自然館・公益財団法人しまね自然と環境財団, 大田。
井上雅仁(編)(2020) 杵村喜則氏収集植物標本目録(III), 205pp. 島根県立三瓶自然館・公益財団法人しまね自然と環境財団, 大田。
三浦憲人・森定伸・宇田川卓義・長谷研次(2015) 島根県雲南市木次町ふるさと尺の内公園における植物相調査(2013-2014), ホシザキグリーン財団研究報告, (18):21-39。
三浦憲人(2015) 島根県産植物の染色体観察記録(2), ホシザキグリーン財団研究報告, (18):273-276。
三浦憲人・森定伸・岡井陽平(2022) 島根県雲南市木次町ふるさと尺の内公園における植物相調査(2019), ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (31):39-61。

県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)や県東部の丘陵域で確認されているが、近年、これらの生育地が消滅しつつあって、かなりまれな状態となっている。以前、林縁路傍などのやや陰湿な地に生育していた個体群などは、現在ほとんど消滅してしまっている。(安来市広瀬町下山佐、松江市大野町、松江市島根町、松江市八雲町、松江市玉湯町、隠岐郡布施村布施、隠岐郡五箇村南方長尾田、雲南市加茂町近松)

存続を脅かす原因

生育地での遷移、樹林伐開などによる環境変化。
(執筆:三浦 憲人・杵村 喜則)

情報不足 (DD)

ヒカゲノカズラ科

アスヒカズラ

Lycopodium complanatum L.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	絶滅危惧I類 (CR+EN)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

県内での生育地はきわめて局地的であり、個体数も少なく、離れた分布を示す。

概要

常緑性のシダで、地上生で、匍匐茎は地中または地上を長く這い、まばらに分岐する。直立茎は斜上または直立し、高さ10—30cmになり、扇状に分岐する。鱗片葉は鮮緑色で、4列に並び、先端は棘状。背葉は線形で圧着し、側葉は広く、開出する。孢子嚢穂は1—3cmで円柱形。3—10cmの長さの柄に1—5個つく。国内では北海道や本州中部以北には多いが、本州西部には少なく、滋賀、兵庫、鳥取、島根、広島、岡山などの限られた場所に点在し、徳島県でも生育する。ただ、本州西部での生育は、海老原(2016)では『兵庫県・岡山県・島根県では、法

参考文献

海老原 淳(2016)「日本産シダ植物標準図鑑1」,475pp.株式会社学研プラス,東京
岩槻邦男(1992)「日本の野生植物シダ」,311pp.平凡社,東京
澤江 宏・篠原良夫(2004) 益田市に自生するシダ植物(5),島根植物研究会会報7:2-3
杵村喜則(1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1:221-232
柳浦正夫(2010) 植物の分布・観察報告(39)アスヒカズラ *Lycopodium complanatum* L. 島根植物研究会会報18:8-12

面への吹きつけ種子に混じって移入したと推定される個体群が、比較的低標高で見られている。」としている。国外では北半球の温帯に広く分布する。

県内での生育地域・生育環境

県内では2000年代に西部と東部に分布が確認された。ともに切り開かれた道路脇の斜面で少数生育していた。西部の産地には今も生育しているが、東部では2016年には見当たらなくなっている。しかし、県内の産地では吹きつけ植物は見られないので、シダ植物でしばしば起こる孢子が長距離移動して離れた場所に生育するようになったとも考えられる。今回は情報不足としておく。

存続を脅かす原因

遷移。
(執筆:柳浦 正夫)

情報不足 (DD)

オシダ科

ツルデンダ

Polystichum craspedosorum (Maxim.) Diels

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリ

-

撮影者(提供者): 柳浦正夫



選定理由

生育地も個体数も少ない。

概要

常緑性のシダ植物で、根茎は短く、直立から斜上する。葉は輪生し、葉柄は長さ1-10cmで、茶色で披針形の鱗片をつける。葉身は線状披針形で長さ12-20cm、幅2-3.5cm、先は長く伸びて無性芽をつける。単羽状複生し、羽片は20-35対つき、卵状長楕円形で鈍頭、短い柄がある。葉裏は線形の鱗片がある。孢子嚢群は辺縁よりに1列に並び、苞

参考文献

海老原 淳 (2017) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp. 株式会社学研プラス,東京
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京
 中池敏之 (1992) 「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京
 澤江宏・篠原良夫 (2009) 益田市に自生するシダ植物(14)島根植物研究会会報16:14-15 島根植物研究会
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相. ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

膜は円形で径2mmを超えて大きく見える。国内では北海道から九州にみられ、中国・朝鮮半島・ソビエト東部に分布する。湿った岩上に群生することが多い。

県内での生育地域・生育環境

西部での生育が報告されている。山域の道脇の岩に生育していたとのことである。

存続を脅かす原因

遷移、園芸上の採取。

(執筆: 柳浦 正夫)

情報不足 (DD)

ヒルムシロ科

ヒルムシロ

Potamogeton distinctus A.Benn

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリ

-

撮影者(提供者): 辻井要介



選定理由

かつては県内に普通の水田雑草だったと考えられるが、現在確認できる生育地が少なく、評価できるだけの情報が不足している。

概要

全国の湖沼や溜池、河川、水路、水田などに生育する多年生の浮葉植物。沈水葉は長さ5-16cm、幅1-2.5cmの披針形で、明瞭な葉柄がある。浮葉は長さ4-11cm、幅1.5-4cmの狭長楕円形か楕円形で、表面はクチクラ層の光沢がある。花期は5-10月で、穂状花序を水面に伸ばす。花の心皮は1-3個で近似種との識別点となる。水の引いた環境では、陸生形でも生育する。地下茎を泥中に伸ばし、先端に殖芽をつける。

参考文献

角野康郎 (2014) 日本の水草]. 326pp. 文一総合出版, 東京.
 宮田昌彦・谷城勝弘・山田寛治編 (2025) 水生・湿生植物生活史図鑑. 617pp. 北隆館, 東京.
 中川昌人・國井秀伸 (2015) 穴道湖. 天神川および斐伊川河口域の小河川における 2013 年の水生植物相. LAGUNA. 22: 1-10.
 杉村喜則 (2006) 島根県の植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告. 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内のほぼ全域にややまに分布とされるが、近年は県東部の溜池や水田、水路のみで生育が確認されている。出雲平野に本種として記録されている種はササパモとヒルムシロの雑種であるアインコヒルムシロの場合がある。基本的に止水域に生育するが、流れのある水路でも見られる。

存続を脅かす原因

除草剤の使用、水質汚濁、アメリカザリガニによる食害、農業形態の変化による溜池の管理不足と水田の乾田化。

(執筆: 辻井 要介)

情報不足 (DD)

ヒルムシロ科

センニンモ

Potamogeton maackianus A.Benn.

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリ

-

撮影者(提供者): 辻井要介



選定理由

県内では生育している場所はわずかであり、個体数も少ない。

概要

湖沼、河川、水路などに生える多年生の沈水植物で、葉はすべて沈水葉で、葉身は広線形で長さ2-6cm、幅1.5-4mm、3脈で低い鋸歯があり、先端は凸形。托葉は基部と合着して葉鞘状で上部が耳状突起となる。花期は7-8月で1-5cmの花茎の先に4-10mmの穂状花序となり2-4個の花がつく。北海道~九州に分布し、朝鮮半島・中国・東南アジアに分布する。

参考文献

大橋広好他 (2015) 「改訂新版 日本の野生植物 1」.391pp. 株式会社平凡社,東京
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館
 松村喜則 (2006) 島根県の種子植物相(補遺) .. 島根県立三瓶自然館研究報告(4): 41-43 島根県立三瓶自然館
 柳浦正夫 (2009) 出雲平野南部のため池で見られた水生植物について. 島根植物研究会会報16:5-7 島根植物研究会

県内での生育地域・生育環境

東部から報告されている。同地域の低地のため池などで点々と見られたが、産地が減少し、ほとんど見られなくなっている。

存続を脅かす原因

湖沼の管理放棄、水質悪化。

(執筆: 柳浦 正夫)

情報不足 (DD)

ヒルムシロ科

ヒロハノエビモ

Potamogeton perfoliatus L.

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリ

-

No Image

選定理由

根来(1962)の報告書中にヒロハノエビモの記載があるが、その後の県内での観察例は無い。宍道湖で近年大繁殖しているオオササエビモ(*Potamogeton × anguillanus* Koidz.)はヒロハノエビモとササバモを両親とする雑種であることから、根来(1962)の調査以前に交雑が起こり、その後片親である本種が消滅したことになる。今回、調査時の標本の有無が確認されていないことからカテゴリを情報不足としたが、標本が今後確認された場合にはカテゴリは絶滅となる。

概要

全国の比較的大きな湖沼、あるいはまれに河川などにも生育する多年生の沈水植物である。水中茎は水深によって長さ2mに達することがある。葉はすべて沈水葉で、葉柄は無く、葉身は広卵形、披針形などさま

参考文献

角野康郎(2014)日本の水草, 326pp. 文一総合出版, 東京.

根来健一郎(1962)水草・大型藻類, 中海干拓・淡水化事業に伴う魚族生態調査報告(宮地伝三郎編), p.82-83, 島根県.

ざまな形があるが、葉身の基部が茎を半周以上抱くことが本種の大きな特徴である。葉の長さは1.5-9cm、幅10-25mm、縁は波打ち、直立たない鋸歯がある。縦に走る主要な葉脈が3本あり、その間に細い縦脈が2本ある。托葉は膜質で、すぐに腐朽して残らない。花柄は長さ3-9cm、穂状花序は長さ10-25mmで密に花をつける。秋になると地下茎の先端が肥大して殖芽となり越冬する。環境省のレッドリストには掲載されていないが、多くの都道府県のレッドリストに掲載されている。

県内での生育地域・生育環境

現状を確認できていないが、根来(1962)によれば、汽水域である宍道湖と中海を結ぶ大橋川で見られたようである。

存続を脅かす原因

護岸整備や河川改修などの人為的干渉。

(執筆: 国井 秀伸)

情報不足 (DD)

ラン科

ツリシュスラン

Goodyera pendula Maxim.

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリ

-

撮影者(提供者): 澤田達也



選定理由

生息地の詳細は不明であるが、県内では非常にまれなものと考えられる。

概要

林内の樹上に着生する多年生草本。茎は基部が横にはい、しだいに下垂して長さ10-20cmになる。葉は広披針形で長さ2-3.5cm、幅0.5-1cm、鋭頭、基部はくさび形、数枚つける。花は7-9月、花茎が立ち上がり、白色の花を一方向に片寄せた形で多数つける。萼片は狭卵形、側花弁狭倒披針形、唇弁は広卵形、萼片より少し短い。北海道から九州・台湾に分布する。

参考文献

丸山 巖(1982)ベニシュスラン, 島根県大百科事典編集委員会・山陰中央新報社開発局, 島根県大百科事典下巻, 山陰中央新報社 p.473

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物1」, 391pp. 株式会社平凡社, 東京

杵村喜則(2005)島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

丸山により石見の奥山地に少数生育するとされている。同地域の樹上に生育していたものが確認されたものと考えられる。

存続を脅かす原因

遷移、森林伐採。

(執筆: 柳浦 正夫)

情報不足 (DD)

ラン科

ギボウシラン

Liparis auriculata Blume ex Miq.

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリ

絶滅危惧Ⅰ類(VU)

撮影者(提供者): 澤田達也



選定理由

県内での生育はきわめて少ないと考えられる。

概要

冷温帯から暖温帯の林床や湿原に生育する。葉は広卵形で、急鋭頭、基部は心形になる。花茎は高さ15-25cmで直立し、7-8月に先端に花を多数つける。萼片は線状長楕円形で鋭頭で、側花弁は線形。唇弁は倒卵形くさび形で円頂となる。萼片と側花弁は同長で5mmほどになる。国内では北海道から九州・屋久島に分布し、濟州島にも見られる。

参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物1」, 391pp. 株式会社平凡社, 東京

杵村喜則(2005)島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

現地での状況は不明であるが、西部の山域からの生育が報告されている。

存続を脅かす原因

遷移、森林伐採。

(執筆: 柳浦 正夫)

情報不足 (DD)

ラン科

スズムシソウ

Liparis makinoana Schltr.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

No Image

選定理由

県内での生育状況が不明である。

概要

冷温帯の山地の林内に生える多年草である。草丈は茎を伸ばすと10—25cmになる。肥大した偽球茎の基部から2枚の葉と茎を出す。葉は長さ6—12cm、幅3—5cmの広楕円形または長楕円形である。花期は5—6月で、花は直径約3cm、淡暗紫色で、10個前後をまばらにつける。唇弁は倒卵形で、平らで反曲しない。近縁のフガクスズムシソウは、唇弁は直角に著しく反曲する。北海道から九州、朝鮮半島に分布する。

参考文献

大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩編 (2015) 改訂新版 日本の野生植物 1 ソテツ科~カヤツリグサ科. 666pp. 平凡社, 東京.
 秋村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県西部（吉賀町）での報告がある。生育環境は、山地林内とみられる。

存続を脅かす原因

園芸上の採取、森林伐採。

特記事項

スズムシソウの仲間は、近年の研究で複数のタイプに分類されており、県内で記録されたものがどのタイプに当たるか精査が必要である。

(執筆: 井上 雅仁)

情報不足 (DD)

ラン科

ニラバラン

Microtis unifolia (G.Forst.) Rchb.f.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

-

No Image

選定理由

県内での生育地は限られているが、自生のものか不明のため、今後の情報収集が望まれる。

概要

日当たりのよい草地に生える多年草である。地下に球茎があり、そこから茎と1葉を伸ばす。草丈は花茎を伸ばすと10—40cmになる。葉は長さ15—25cm、直径2—2.5mmの円柱状で、1個つける。花期は4—5月で、20—30個の淡緑色の花を、茎の上部にやや密につける。本州(千葉県以西)から琉球、中国南部、台湾、東南アジア、オセアニアに分布する。

参考文献

大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩編 (2015) 改訂新版 日本の野生植物 1 ソテツ科~カヤツリグサ科. 666pp. 平凡社, 東京.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県西部（益田市）で確認されている。生育環境は、河川の土手の草地内である。周辺には播種が起源とみられる外来草本が多いことから、自生のものか今後の情報収集が望まれる。

存続を脅かす原因

園芸上の採取、管理放棄による草地の遷移の進行。

(執筆: 井上 雅仁)

情報不足 (DD)

ラン科

トンボソウ

Platanthera ussuriensis (Regel et Maack) Maxim.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者): 澤田達也



選定理由

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数も多くはない。

概要

湿った林床や湿地に生え、茎は15—35cmになる。下部に2枚の葉があり、狭長楕円形から倒披針形で弓状に曲がり、長さ8—13cm、幅1—3cmとなる。茎の上部へは鱗片葉が続く。花期は7—8月で、茎の上部に淡黄緑色の小花をやや多数つける。背萼片は広楕円形、側萼片は狭長楕円形、側花弁は狭い卵形、唇弁は白色で、基部から3裂する。南千島・北海道から九州・朝鮮半島・中国・極東ロシアに分布する。

参考文献

大橋広好他 (2015) 「改訂新版 日本の野生植物 1」, 391pp. 株式会社平凡社, 東京.
 秋村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館
 秋村喜則 (2007) 島根県植物分布資料(38)トンボソウ *Tulotis ussuriensis* (Regel) Hara. 島根植物研究会会報13:14 島根植物研究会

県内での生育地域・生育環境

西部から報告されている。山域の湿地にわずかに生育が見られる。

存続を脅かす原因

湿原の遷移。

(執筆: 柳浦 正夫)

情報不足 (DD)

ヒガンバナ科


ヒメニラ

Allium monanthum Maxim.

カテゴリー区分		
2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価	-
環境省カテゴリー	-



選定理由
県内での生育地は限られているが、生育状況が不明である。

概要
山野に生える多年草である。草丈は花茎を伸ばすと約10cmになる。葉は線形で長さ10—15cm、幅3—8mmで、根元から1—2枚の葉を出す。地下には長さ約1cmの卵形の鱗茎がある。花期は4月ごろで、花茎の先に白い小さな花をつける。地上部は3—4月に出現し、花期が終わると地上部は枯れる。雌雄異株である。

●参考文献
大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩編 (2015) 改訂新版 日本の野生植物 1 ソテツ科~カヤツリグサ科, 666pp. 平凡社, 東京.

県内での生育地域・生育環境
県内での分布は、県西部（吉賀町）で確認されている。生育環境は、低山地の林縁部で、定期的に草刈りが行われている場所である。

存続を脅かす原因
林縁部の管理放棄による灌木化、樹林化。
(執筆者: 井上 雅仁)

情報不足 (DD)

クサスギカズラ科

ヒメイズイ

Polygonatum humile Fisch. ex Maxim.

カテゴリー区分		
2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

島根県固有評価	-
環境省カテゴリー	-

No Image

選定理由
絶滅としている文献がある。

概要
草原や海岸に生える多年草で、草丈10—45cmになる。茎は直立し、稜角がある。葉は線状長楕円形で、長さ9cm、幅4cmほどになり、両面緑色で先は端の丸い鋭形になる。花は初夏に葉腋に1個ずつつき、花被片は長さ1.5cmほどで花柄の先に下垂し、白色からクリーム色で先端は緑色となる。国内では、北海道・本州（滋賀県以北）とされ、サハリン〜シベリア・朝鮮半島・中国北東部・モンゴルなど広く分布するものとされる。

●参考文献
丸山 巖 (1982) ヒメイズイ、島根県大百科編集委員会・山陰中央新報社開発局、島根県大百科事典 下巻、山陰中央新報社、397-398
大橋広好他 (2015) 「改訂新版 日本の野生植物 1」, 391pp. 株式会社平凡社, 東京
秋村喜則 (2006) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3) : 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境
「隠岐に以前から生育していることが知られているが、今は見られない。」とする文献がある。

存続を脅かす原因
不明。
(執筆者: 柳浦 正夫)

情報不足 (DD)

ホシクサ科


ホシクサ

Eriocaulon cinereum R. Br.

カテゴリー区分		
2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

撮影者(提供者): 辻井要介

島根県固有評価	-
環境省カテゴリー	-



選定理由
県内の水田に広く分布していると考えられるが、県東部の平野部では見られなくなった水田もあり、近年の生育情報が不足している。

概要
北海道を除く全国の湖沼や溜池、水田などに生育する一年生の抽水・湿生植物。線形のやや肉厚の葉が束生する。葉の長さ3—8cm、幅は下部の方が2—4mm。花期は8—10月で、10本ほどの花茎を伸ばし、先端に4mmほどの灰白色の頭花をつける。無数に咲く花を夜空の星々に見立てたことが和名の由来。かつては普通の水田雑草であったが、除草剤の使用などにより全国的に減少している。

●参考文献
角野康郎 (2014) 日本の水草, 326pp. 文一総合出版, 東京.
宮田昌彦・谷城勝弘・山田寛治編 (2025) 水生・湿生植物生活史図鑑 I, 617pp. 北隆館, 東京.

県内での生育地域・生育環境
県内全域の水田に稀に生育すると考えられる。県東部では、稲刈り前後の水田に開花した株が生育する様子が見られる。

存続を脅かす原因
除草剤の使用、農業形態の変化による溜池の管理不足と水田の耕作放棄。
(執筆者: 辻井 要介)

情報不足 (DD)

イネ科

コウボウ

Anthoxanthum nitens (Weber) Y.Schouten et Veldkamp var. *sachalinense* (Printz) Yonek.

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリ

-

No Image

選定理由

生育地は限られており、遷移などにより全滅してしまう可能性がある立地である。個体数が確認された場合、生息環境の維持も含めて保全していくべき種である。

概要

日当たりのよい砂質草原に生育する多年草で、草丈20—50cmになる。葉身は短く1—4cmの披針形で、少数つく。花は円錐花序で広卵形、長さ4—8cm、小穂は広倒卵形、長さ4—6mm、黄褐色で、光沢がある。2個の雄性小花の護穎には褐色の縁毛がある。花は4—6月に見られる。国内では南千島・北海道から九州に生息する。

参考文献

大橋広好他 (2015) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」, 391pp. 株式会社平凡社, 東京
 村村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告3: 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

中部から生育が報告されている。生息地の詳細は不明だが、山域の明るい草原に生育していたものと推定される。

存続を脅かす原因

遷移。

(執筆: 柳浦 正夫)

情報不足 (DD)

キンボウゲ科

クサボタン

Clematis stans Siebold et Zucc. var. *stans*

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリ

-

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



選定理由

生息の詳細は不明だが、県下では極めてまれなものと考えられる。

概要

暖温帯の林の林縁や岩上などに生える低木で、茎は高さ0.5—1mになる。葉は夏緑性で、1回3出複葉となり、小葉は広卵形、長さ5—14mm、幅3—11mm。3浅裂してあらい鋸歯をもつ。葉柄は長く4—20cmになる。花期は8—9月で、頂生あるいは腋性あるいは腋生する複葉散花序に多数つき、両性あるいは単性。淡青紫色。下向きに咲く。

参考文献

大橋広好他 (2016) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」, 381pp. 株式会社平凡社, 東京
 村村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告3: 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

県内での生育が報告されている。詳細は不明だが、中国山地寄りにまれに分布しているとしている。

存続を脅かす原因

森林伐採、園芸上での採取。

(執筆: 柳浦 正夫)

情報不足 (DD)

ユキノシタ科

イワボタン

Chrysosplenium macrostemon Maxim. ex Franch. et Sav. var. *macrostemon*

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリ

-

No Image

選定理由

生息地も個体数も少ない。

概要

沢沿いの陰湿な場所に生える多年草で、花茎は赤紫で3—15cmになる。根生葉に長い柄があり、葉身は卵形で、長さ0.5—5cm、鈍頭で、基部はくさび形、鋸歯がある。花時に残っている。また、走出枝は花後伸張し、先端近くに基部よりも大きな葉を数対つける。茎葉も長い柄をもち、葉身は卵円形から卵状楕円形となる。苞は下部は暗緑色だが、上部のものは鮮黄色となる。花は4月に咲き、径3—3.5mm、萼裂片は花時に斜開から直立し、楕円形から三角状卵形となる。花盤は緑白色、雄蕊の葯は開く前は黄色。種子は楕円形から卵形で長さ0.8mm—1mmとなる。

参考文献

大橋広好他 (2016) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」, 381pp. 株式会社平凡社, 東京
 村村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告3: 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

西部での生育が報告されている。他にも生育情報を聞いており、同地域の山域の渓谷等にまれに生育しているものとする。

存続を脅かす原因

遷移、森林伐採。

(執筆: 柳浦 正夫)

情報不足 (DD)

マメ科

オオバクサフジ

Vicia pseudo-orobus Fisch.et Mey

カテゴリ区分		
2004	2013/2014	2026
-	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価	-
環境省カテゴリ	-

No Image

選定理由

近年、生育地が急激に減少し、生育個体数も激減している。

概要

山地林縁や草地などに生える蔓性の多年草で、長さ80—150cmに伸びる。葉はほとんど柄がなく、葉身は長さ7—20cmで先は分枝する巻きひげとなる。小葉は4—10枚に互生し、卵形で長さ3—5cm、幅1.5—3cm。托葉は半切卵形。花は8—10月に総状花序で青紫色の花をつける。豆果は狭長楕円形で、長さ2.5—3cmになり、黒色の種を数個つける。国内では北海道～九州に分布し、朝鮮半島・中国・モンゴル・ロシアの東部に見られる。

参考文献

大橋広好他 (2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」,381pp. 株式会社平凡社,東京
 村村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3) : 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部での生育が報告されている。山地の林縁や耕作地周辺で生えていたが、近年はまったく見られなくなっている。

存続を脅かす原因

林縁の刈り込み等の管理放棄により、生育地の適地の消失。
 (執筆者: 柳浦 正夫・枚村 喜則)

情報不足 (DD)

ヤナギ科


クスイゲ

Xylosma congesta (Lour.) Merr.

カテゴリ区分		
2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

島根県固有評価	-
環境省カテゴリ	-

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



選定理由

県下に生育するとの報告があり、確認されれば、厳重に保護する必要のある植物である。

概要

雌雄異株の常緑低木で、茎の葉腋や幹に2—3cmの刺がある。葉は長楕円状卵形で、長さ4—8cm、幅2—4cm、鋭尖頭、基部は鈍形から広卵形になる。また、縁に鋸歯があり、両面無毛。雄花序は長さ1—3cm、雌花序は雄花序より短い。花は9月にさき、小さく黄白色になる。萼片は4枚広卵形から卵円形、雄花は径2.5mm多数の雄しべが、雌花は雌しべ1個で短い花柱がある。液果は球形で径5mm、黒く熟す。本州(近畿以西)、四国・九州・琉球に見られる。

参考文献

丸山 巖 (1982) クスイゲ、島根県大百科編集委員会・山陰中央新報開発局、島根県大百科事典上巻、山陰中央新報社、p.506
 大橋広好他 (2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」,338pp. 株式会社平凡社,東京
 村村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3) : 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

西部に生育するとの報告がある。生育状況は不明であるが、沿岸沿いの乾燥した森林の林縁等に生育していたのではないと思われる。

存続を脅かす原因

遷移。
 (執筆者: 柳浦 正夫)

情報不足 (DD)

スミレ科

マルバスミレ

Viola keiskei Miq.

カテゴリ区分		
2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

島根県固有評価	-
環境省カテゴリ	-

撮影者(提供者): 澤田達也



選定理由

県下では生息地も個体数も少ない。環境の変化により各生息地も絶滅する可能性もある。

概要

無茎のスミレで、葉は平開し、葉身は円心形で先端は円頭、基部は心形長さ2—4cm。下面脈状や上部に毛がある。葉柄は2—10cm。花茎は長さ5—10cmで花は3—5月に咲く。花弁は白色で長さ10—14mmで、唇弁の脈は紫色になる。萼片は楕円状披針形で、付属体には数個の鋸歯がある。花柱は虫頭状に膨らみ、柱頭はわずかに突き出る。国内では北海道(道南地方)から九州に分布し、朝鮮半島にも見られる。従来

参考文献

大橋広好他 (2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」,338pp. 株式会社平凡社,東京
 村村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3) : 1-49 島根県立三瓶自然館

茎や葉に毛があるものをケマルバスミレ、ないものをマルバスミレと呼んでいたが、無毛のものは極めて少ないので、両者を区別せずマルバスミレとよばれるようになっていく。

県内での生育地域・生育環境

東部や中部から生育が確認されている。丘陵域から山域の林縁などや被陰された場所にまれに確認される。また、隠岐(島後、西ノ島)に生育するとの情報もある。

存続を脅かす原因

遷移、森林伐採。
 (執筆者: 柳浦 正夫)

情報不足 (DD)

ツチトリモチ科

ミヤマツチトリモチ

Balanophora nipponica Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):柳浦正夫

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅰ類(VU)



選定理由

生息地や個体数が少ない。自生が確認された場合、周囲の環境も含めて保全していく必要がある。

概要

多年草で雌雄異株であるが、雄株は発見されていない。土表部に塊茎を生じ、これが分かれて茎を出す。年数が経つと塊茎と寄種の根の先端の結合部は肥大して木化し、5-9cmの球形になる。花茎は8-14cmで花序は赤みを帯びた淡褐色。小棍体の表面は膨らみ網目状隆起となる。雌花は小棍体の間に多数が埋もれた状態で存在する。子房は大きく紡錘状で、オレンジ色、花柱は花の初期には短い、後長く伸びて小棍体の

間から出て、細毛状に見える。花期は7-8月。本州から九州の山地に分布する。寄種はイタヤカエデ、ウリハダカエデ、ヤマモミジ、コミネカエデなどのカエデ類の他、イヌシダ、クロヅルなどで、ウワミズザクラ、ダケカンパなどにも寄生するとされる。

県内での生育地域・生育環境

東部で生育していたとされる報告がある。詳細は不明であるが、中国山地のブナ帯の林下に生育していたものと思われる。

存続を脅かす原因

遷移、森林伐採。

(執筆者:柳浦 正夫)

参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」,348pp.株式会社平凡社,東京
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3):1-49 島根県立三瓶自然館

情報不足 (DD)

ヒユ科

ヤナギイノコヅチ

Achyranthes longifolia (Makino) Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

No Image

選定理由

生育地も個体数も少ない。

概要

山地の水際に生える多年草で、高さ1mほどになり、まばらに分枝する。葉は広披針形から披針形で、長さ10-20cmになる。花は8-9月で花穂に花をまばらにつける。小苞基部の付属片は卵状三角形、花柱は長さ1.5mmになる。国内では本州(関東地方以西)から九州に見られ、中国・台湾に分布する。

県内での生育地域・生育環境

東部で報告されている。詳細は不明だが、丘陵域の林縁などの湿地に生育していたものと推測される。

存続を脅かす原因

遷移、刈り取り。

(執筆者:柳浦 正夫)

参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」,348pp.株式会社平凡社,東京
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3):1-49 島根県立三瓶自然館

情報不足 (DD)

ツツジ科

シラタマノキ

Gaultheria pyrolloides Hook.f. et Thomson ex Miq.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):青木充之

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



選定理由

生育報告はあるが、現在生育が確認できない状況である。

概要

山地の岩地に生える常緑の低木で、高さ10-20cmになる。葉は革質で葉身は楕円形、長さ1.5-2.5cm、幅0.8-2cm。先端は丸く、鋭い鋸歯があり、裏面は白みを帯びる。花は6-7月で、上部の葉腋や先端から2-6cmの花序を出し、3-6個の花をつける。花冠は白色で、つぼ形、長さ6mmほどになる。果実は白色で径約1cm。国内では(伯耆大山と中部以北)・千島列島・アリューシャン列島・サハリンに分布する。

県内での生育地域・生育環境

杵村(2005)で「出雲部の稀に分布:大田」とされている。杵村から女三瓶と男三瓶の稜線で僅かに確認したが、今は確認できないと2010年頃に聞いている。

存続を脅かす原因

確認されていたものは、遷移などの環境変化で絶えたものと考えられる。

(執筆者:柳浦 正夫)

参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」,348pp.株式会社平凡社,東京
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3):1-49 島根県立三瓶自然館

情報不足 (DD)

キョウチクトウ科


コバノカモメヅル

Tylophora floribunda Miq.

カテゴリ区分		
2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):津島辰雄

島根県固有評価	-
環境省カテゴリ	-



選定理由

生息地も個体数も少ない。

概要

山地の草原に生えるつる性の多年草。葉は対生し、葉柄は3—25mm、葉身は薄く、三角状卵形から卵状披針形で長さ3—6cm、幅1—3mmで、先はとがり、基部は浅い心形となる。花は7—8月、花序は葉腋から出てよく分枝し、径4—5mmで、暗紫色。花冠の裂片の上面にはやや微毛があり、袋果は双生し、水平に開出し、線状披針形で無毛、4—5cm。本州~九州、朝鮮半島・中国に分布する。

●参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」.348pp. 株式会社平凡社,東京
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部から報告されている。丘陵域と山域から生育が報告されており、詳細は不明だが、草地や林縁に生育していたと思われる。

存続を脅かす原因

遷移。

(執筆:柳浦 正夫)

情報不足 (DD)

ナス科

オオマルバノホロシ

Solanum megacarpum Koidz.

カテゴリ区分		
2004	2013/2014	2026
-	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価	-
環境省カテゴリ	-

No Image

選定理由

県内での生育地はきわめてまれであり、個体数もまれである。

概要

山地の湿地など、湿り気のある場所に生えるつる性の多年草である。地下に匍匐する子根茎があり、そこからつる性の茎を伸ばす。葉は長さ4—9cm、幅2—4cmの卵形で、互生する。花期は8—9月で、青紫色の花を5—10個前後、花茎の先に付ける。北海道、本州の中部地方以北、サハリンなどの冷温帯に分布する。

●参考文献

丸山 巖(1971) 三瓶山の植物概況、大山隠岐国立公園 三瓶山の自然、21-32. 島根県。
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県中部(大田市)で知られていたが、確認時でも個体数はきわめて少なく、絶滅寸前の状態であった。近年は個体が確認されておらず、現在の状況は不明である。

存続を脅かす原因

遷移。

(執筆:井上 雅仁・杵村 喜則)

情報不足 (DD)

オオバコ科

ヒヨクソウ

Veronica laxa Benth.

カテゴリ区分		
2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

島根県固有評価	-
環境省カテゴリ	-

No Image

選定理由

生育地も個体数も少ない。

概要

日当たりのよい草地に生える多年草で、短い地下茎から茎を伸ばし、25—70cmになり軟毛が密に生える。葉は対生し、上部のものが大きくなる。ほとんど柄がなく、卵形で先は尖り、基部は丸い。縁に荒く不規則な鋸歯があり、2—4.5cm、幅1—3cmになる。花は6—7月、上部の葉腋から長さ5—20mmの細かい花序をつけ、花被は淡青紫色で皿形。径6—8mmとなる。果実は倒心形で、先がへこみ、縁に毛が生え、長さ3mm、幅4mmになる。国内では北海道西南部・本州・四国に見られ、中国・パキスタン・インド・ヒマラヤに分布する。

●参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館
 杵村喜則(2007) 島根県植物分布資料 (39)ヒヨクソウ *Veronica melissaefolia* Poir. 島根植物研究会会報13: 14 島根植物研究会

県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)で生育が確認されている。

存続を脅かす原因

遷移。

(執筆:柳浦 正夫)

情報不足 (DD)

シソ科

ハマクサギ

Premna microphylla Turcz.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

-

No Image

■ 選定理由

県下での生育の報告があり、生育する個体があれば厳重に保護の必要がある。

■ 概要

低山の林縁に生える落葉小高木。葉は薄く、もむと臭気がある。形は広卵形～卵状楕円形で長さ4～12cm、幅2.5～7cmで数個の鈍い鋸歯があるが、老木では鋸歯はなくなる。また、葉柄は0.5～1.5cmとなる、円錐花序は頂生し、5～6月に花冠の長さが7～8mmの淡黄色の小さい花をつける。国内では本州（近畿地方以西）・四国・九州・琉球・台湾・中国中南部に分布する。

● 参考文献

丸山 巖 (1982) ハマクサギ 島根県大百科事典編集委員会・山陰中央新報社開発局、島根県大百科事典下巻、山陰中央新報社、336-337
大橋広好他 (2017) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」, 474pp. 株式会社平凡社, 東京
秋村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3) : 1-49 島根県立三瓶自然館

■ 県内での生育地域・生育環境

西部に分布するとする報告はあるが、標本などは確認されていない。

■ 存続を脅かす原因

遷移。

(執筆: 柳浦 正夫)

情報不足 (DD)

タヌキモ科

ホザキノミミカキグサ

Utricularia caerulea L.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者): 青木充之



■ 選定理由

県内での生育状況が不明である。生育環境である湿地が、開発や乾燥化、遷移の進行などにより各地で減少している。

■ 概要

明るく開けた湿地やミズゴケ上などに生える多年草である。草丈は花茎を伸ばすと5～40cmになり、日本産のミミカキグサ類では最も大きくなる。空中葉は幅2～10mmのへら形で、花茎の基部や地表付近の茎などに集まってつく。捕虫嚢の数は少なく、地下の茎にまばらにつく。花期は6～9月で、花は長さが約4mm、色はピンク色から淡紫色、花柄がほぼ無く、花軸の上部に4～10個つける。花軸上の鱗片葉は盾状に

● 参考文献

大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司編 (2017) 改訂新版 日本の野生植物 5 ヒルガオ科～スイカズラ科, 760pp. 平凡社, 東京。
島根県大百科事典編集委員会 (1982) 島根県大百科事典 上巻, 山陰中央新報社, 島根。

つく。花の色が近いムラサキミミカキグサは、花の長さは約3mm、色は藍紫色、明らかな花茎をもち、花軸上の鱗片は盾状につかない、などの違いがある。北海道から琉球、アジアからオーストラリア、マダガスカル、西太平洋の一部（グアム、パラオ）に分布する。

■ 県内での生育地域・生育環境

詳細な生育地は不明であるが、県下に分布するとの記録がある。生育環境は、山間の明るく開けた湿地などである。

■ 存続を脅かす原因

園芸上の採取、湿地の開発、乾燥化や遷移の進行による灌木化、樹林化。
(執筆: 井上 雅仁)

情報不足 (DD)

タヌキモ科

イトタヌキモ

Utricularia exoleta R. Br.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

No Image

■ 選定理由

減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池や休耕田の保全・管理が年々行われなくなっている。

■ 概要

本州、九州、南西諸島の溜池や湿地、休耕田などに生育する一年生または多年生の湿生植物で、ミカワタヌキモともいう。茎はごく繊細な糸状で直径1mm以下、盛んに分枝して絡み合いマット状になる。花茎は長さ5～15cmで褐色、花は淡黄色で大きさ3～4mmほど。

● 参考文献

角野康郎 (2014) 日本の水草, 326pp. 文一総合出版, 東京。

■ 県内での生育地域・生育環境

宍道湖北岸のため池と休耕田で観察例があるが、全県的な調査は行われていない。

■ 存続を脅かす原因

農業形態の変化による溜池の管理不足と水田の乾田化。
(執筆: 國井 秀伸)

情報不足 (DD)

キク科

ハバヤマボクチ

Synurus excelsus (Makino) Kitam.

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリ

-

No Image

選定理由

生息地も個体数も少ない。

概要

草原や林縁などに生える多年草で、茎は直立し、1-2mになる。茎にはくも毛があり、上部で分枝する。下部の葉は心形で、長さ10-20cmで10-23cmの葉柄がある。花は9-10月に短い柄の先に點頭し、総苞は球形で径3cmになる。花冠は長さ25mmで黒紫色。瘦果は楕円形で長さ20mm、褐色になる。本州(福島県以南)~九州に分布する。

参考文献

丸山巖・林享(1985) 野生物シリーズ②しまねの草花。山陰中央新報社、115pp.
大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物V」.474pp. 株式会社平凡社.東京
松村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部や中部から報告されている。山域の草原や林縁などにまれに生育する。

存続を脅かす原因

遷移、刈り取り。

(執筆者: 柳浦 正夫)

絶滅
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

絕滅
野生絕滅

絕滅
危懼 I 類

絕滅
危懼 II 類

準
絕滅危懼

情報
不足